

令和3年度市政経営に係る市長方針

令和2年10月

滝沢市長 主濱 了

昨今の地方では、扶助費の増加や東京圏への転出による人口減少など様々な問題を抱えています。その中で各自治体は課題解決に向けて努力しています。また、地方を取り巻く環境は大きく変化を続けており、経済状況や人々の価値観のみならず、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う「新たな生活様式」への適応など、これまでに経験したことのない局面を迎えています。

このような状況下で、当市における令和3年度の市政経営については、「市民一人ひとりが生きがいややりがいを感じ、充実した人生を送ることができる」ということを念頭において、市政を推進してまいります。

新型コロナウイルス感染症対策については、引き続き感染拡大防止の徹底のため、新しい生活様式に取り組むとともに、社会経済活動の両立の観点からも経済、産業をはじめとし、支援事業等を推進してまいります。

令和3年度は、第1次滝沢市総合計画市域全体計画の後期基本計画の3年目となり、基本計画を着実に進展させながら、時代の潮流や市民生活の現状、新たな人々の価値観などを的確に把握し、次期総合計画の検討に着手していく重要な年度となります。

このことを念頭においた上で、施策の展開としては「生きがい・やりがいの基本となる健康づくりのさらなる推進」「『素晴らしい滝沢』の創造と若者定住の促進」「中心市街地の形成」という大きな3つの分野に注力して進めてまいります。

これらに取組み、政策や戦略を展開していく際には、市民、議会、行政が対話を重ね、力を併せて政策を推進すること、新たな歳入の見直しを含めた財源のさらなる有効活用が不可欠です。

職員についても、行政サービスのさらなる追求や地域課題の解決のため、各部課間での連携の強化が必要です。また、万が一間違った場合には、躊躇せず直ちに正すという行動を徹底しながら、普段の事務や小さなことからでも果敢にチャレンジを重ねていく事が重要と捉えています。

これらの行動を基盤として、市民との接点においては市民に寄り添ったいわば「おもてなしの心」を持ちながら市政の経営を進めてまいります。

私は、令和3年度の市政経営に係る市長方針を着実に実践することにより、「もっと素晴らしい滝沢」の実現を目指します。